

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）は、教育改革を進めており、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士（4 年制大学卒業）を取得できるよう 4 年制の教員養成課程を設立しようとしている。一方、体育科については、国立体育・スポーツ研究所（以下、NIPES）において 2 年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4 年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。本プロジェクトでは、10 年に亘りカンボジアの体育科教育の発展のために活動してきた当会の知見を活かし、他教科の教員養成大学と一貫性のとれた 4 年制体育大学を設立することを目的としている。 Ministry of Education, Youth and Sport (MoEYS) has been renovating the education system and in order to ailing with other ASEAN countries, which all the teachers have bachelor degree, implementing the project to develop Teacher Education College (TEC: 4-year university); however, physical education course is not included in the TEC system and National Institute of Physical Education and Sport (NIPES) remains as 2-year college to train PE teachers for lower and upper secondary school. Therefore, in this project, the goal is to develop consistent 4-year university of physical education with TEC to educate PE teachers for lower and upper secondary schools.
(2) 事業の必要性と背景	（ア）事業実施国における一般的な開発ニーズ ●体育科の意義とカンボジアの教育システム内での位置づけ ・ 2013 年の UNESCO の統計では、全世界で 97%の国で体育が教育課程に導入されており、アジアでは 100%導入されている。 ・ 世界的には、1978 年 11 月の UNESCO 総会にて「体育・スポーツ国際憲章」が採択され、2015 年 11 月に改訂された「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」では、「第 1 条 体育・身体活動・スポーツの実践は、すべての人の基本的権利である」「第 4 条 体育・身体活動・スポーツのプログラムは、生涯にわたる参加の動機付けとならなければならない」等が謳われている。 ・ カンボジアでは、体育は、2015 年に改訂されたカリキュラム・フレームワークの中で、自らの可能性を最大限に高められるよう「態度・知識・技能」を学ぶための 10 教科（国語；クメール語、算数・数学、理科、社会、芸術、体育、保健、コンピューター（ICT）、外国語、ローカルライフスキル）の一つとして位置付けられており、体育科は週 2 時間、年間 70 時間の授業数が確保されている。 ・ 当会がカンボジア教育省と協力して作成した体育科学習指導要領は、2007 年に小学校、2016 年に中学校のものが認定されており、その内容はカリキュラム・フレームワーク内に記載のある「態度・知識・技能」を育てる内容となっており、体育の授業においてグループやチームと一緒に競技を行うことで、チームワーク、ルールの遵守やフェアプレイ等、生徒たちが成人し、社会に出た時に活用できる多くの資質を身につけることができる。 上記のようにカンボジアの小中学校では、体育が教育対象科目になっているが、実際にはほとんどの学校で授業が行われていない。そのため、体育を通じた健康作りについて国民の意識が低いので体育科教育を体系的に確立させることは、国

民保健を改善していく意義を持つ。

(イ) 申請事業の内容(事業値・事業内容)に至った経緯及び全事業からの成果・課題・問題点とそれに対する対応策

●事業申請に至る経緯

- ・カンボジアでは、アセアン各国との調整により教員養成システムが見直されており、全教員を学士取得者とする 것을 目指し、現在 2 年制で 18 州にある小学校教員養成校と 5 州にある中学校教員養成校は 2020 年を目標に 4 年制の教員養成大学へと移行される計画である。
- ・体育・スポーツにおいてもアセアン連携が進んでおり、毎年 1 度開催されている ASEAN Conference of Physical Education and Sport にも 2018 年からカンボジアからも参加しており、より質の高い体育教育を提供できるよう情報収集を行ったり、カンボジアの体育事情を発表したりしている。
- ・中・高等学校の教員のうち、体育科教員だけは、上記 4 年制大学化が計画されている教員養成大学ではなく、教育省の NIPES にて育成されている。
- ・上記の教員養成大学への移行過程において、小学校の教員は全教科を教えるため、体育科も教員養成大学の中に含まれるが、中・高等学校については専科であるため、依然として 2 年制の NIPES で体育教員が養成される。
- ・NIPES 以外に体育・スポーツに関する知識を有している機関がない中、全ての教科の教員を学士取得者とするためには、NIPES に 4 年制の体育科コースを設立する必要がある、カンボジアで 10 年以上、小・中学校の体育科教育の発展に携わってきた当会に対して、教育省より、NIPES の体育科コースの 4 年制大学化への協力依頼があった。¹

●NIPES の体育科コース 4 年制大学化における課題

- ・カンボジアの学習指導要領や体育の授業の実施状況に基づいた既存の体育科カリキュラムがないことから、教育省と 2017 年に体育科カリキュラム策定支援に関する MOU を締結したフランスのナント大学の知見も活用しつつ、右カリキュラムを作成する必要がある。
- ・NIPES の授業の内容は、実技(スポーツ)に偏っており、教授法や指導方法等を教えていないため、新しいカリキュラムを作り、その内容を教えられる人材を育てなければならない。
- ・体育科教員が体育科学習指導要領に則した教授内容を習得するための体育・スポーツ施設が NIPES に整備されていない。
- ・以上の 3 つの課題を解決するため、NIPES の体育科コースに 4 年制大学としてのカリキュラムを整備し、そのカリキュラムを教えることのできる人材育成とカリキュラム内容実施のための施設整備を合わせた事業を提案する。

●第 1 年次事業における成果・指標及び達成状況

- ・第 1 年時の成果・指標・達成状況は以下のとおりである。

成果	指標	達成状況
【成果 1】 NIPES の体育科コースが 4 年制大学に移行するための制度が整えられる。	体育科コース 4 年制大学設立委員会の設置、改訂版体育科カリキュラム、アドミッション・ポリシー、体育科コースの運営ハンドブック、キャリアプラン、評価ポ	体育科コース 4 年制大学設立委員会は設置され、改訂版体育科カリキュラムは教育省大臣により承認された。 また、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリ

¹ 別添 1 教育・青年・スポーツ省からハート・オブ・ゴールドへの協力依頼レター

		リシーが作成される。	シーが記載された教員用及び生徒用運営ハンドブックが作成・印刷・配布された。
【成果 2】 NIPES において、質の高い体育を教えられる人材が育成される。	4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修がカンボジア国内で開催され、参加した NIPES 職員の 60%が 60%の内容を理解している。	4 年制大学体育科コースで教えていく教員 31 名が、カンボジアでの研修に参加し、事業終了時に受けた理解度確認テストにより、65%が 60%の内容を理解していることが確認できた。	
	4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修が、日本及びタイで開催され、派遣された各 4 名が研修を修了している。	日本での研修及びタイでの研修に各 4 名が参加し、合計 8 名が研修終了証を受領した。	
	NIPES の 60%のマネジメント・スタッフがアドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーや運営ハンドブックの内容を 60%以上理解している。	NIPES のマネジメント担当官 33 名が事業終了時に受けた理解度確認テストにより、67%が 60%以上の内容を理解していることが確認できた。	
【成果 3】 NIPES において、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。	プールが建設される。	2019 年 9 月にプール本体並びにフィルター・ポンプルーム、給排水・配電システムが建設された。	
	60%の NIPES 職員がプール運営について 60%理解している。	NIPES 担当官 57 名が理解度テストを受講し、95%が 60%の内容を理解していることを確認できた。	
	施設運営マニュアルが作成されている。	プールの運営マニュアルが作成され、印刷・配布された。	

・ 上記成果から、各成果指標は全体的に達成されたことが確認できる。

・ しかしながら、第 1 年次の完了報告書に記載したとおり、事前に事業変更報告書を提出せずに変更した活動が 1 件（1-15）、事業変更承認申請書を提出せずに変更した活動が 2 件（2-5）（3-10）の 2 件あった。

1-15. 「体育科コース運営ワークショップ」を開催したが、日本人専門家を招聘しなかった。

・ （専門家を招聘しなかった理由）本来 11 月に開始する予定であった NIPES の新学期が、入学試験の実施が遅れ、12 月開始となったため、専門家が研修準備のために必要な検討できるデータの収集が事前に出来なかったからである。しかしながら、NIPES 教職員全員が参加して体育科コース運営ハンドブックの最終版を作成することができ、研修会の目的であるハンドブックに沿って各自が日々の業務を理解することができた。

・ （経費の返還及び第 2 年次の計画、予算）日本人専門家を招へいしなかったもので、その経費（US\$1,172.35）は全額国庫に返還した。また、第 2 年次には

専門家を招聘する計画はなく、予算も計上していない。

2-5. 「大学マネジメント能力向上のための研修」を実施しなかった。

- ・ (実施しなかった理由) 6 月上旬に本研修を実施する予定であったが、活動「1-4. カリキュラム内容検討ワークショップ 6 月上旬を含めて 5 回開催したので、「大学マネジメント能力向上のための研修」を開催する余裕がなかった。しかしながら、日本研修に参加した教員が研修会の講師となって発表し、活動の目的であるマネジメント能力の向上を図ることが出来た。
- ・ (経費の返還及び第 2 年次の計画、予算) 本研修を実施しなかったため、その経費 (US\$1,247.50) は全額国庫に返還した。また、第 1 年次に実施なかった本研修と同様の内容の研修会を第 2 年次に延期して実施する計画はなく、予算も計上していない。本申請書に同じ名前の研修会があるが、当初の計画に第 2 年次の活動として計画していたものであり、研修会の内容も第 1 年次とは全く違うものである。

3-10. 「施設移譲のための覚書を交わし、譲渡式を行う。」施設移譲のための覚書を交わしたが、譲渡式を実施しなかった。

(譲渡式を実施しなかった理由) 当初プールの建設が完了し、教育省高官、日本国大使館関係者及びその他の関係者を招待して譲渡式を行う予定であったが、関係者間 (NIPES) での議論の結果、第 2 期工事でプール並びにジムルーム及び付帯施設が完了してからの方が、4 年制の中・高等学校体育科教員養成に必要な設備が整い、授業で使用されていることを教育省内外の関係者に周知し、NIPES と学校体育の重要性を理解してもらい、本事業が日本国政府と日本の NGO の協力によってカンボジアの教育、特に学校体育の質の向上のために実施されたものであることを広くカンボジア国民に知ってもらうためには良いと判断した。

- ・ (経費の返還及び第 2 年次の計画、予算) 第 1 年次に実施しなかったプールの譲渡式であるが、その経費 (US\$675) は全額国庫に返還した。また、プールの譲渡式は第 2 年次のプール周辺施設及びジム等の設備の完成と合わせて譲渡式を実施する。よって、第 2 年次の譲渡式の経費は全て自己負担とする。
- ・ 成果 1 に関しては、成果としてカリキュラム・フレームワーク、各ハンドブック、運営ハンドブック等 4 年制の新しい制度に移行するために必要な基本文書が作成された。しかしながら制度の基盤が整えられたと言えるようになるには実際にこれらの基本文書に従って運営されることが必要である。第 1 年次では最後の 12 月に新学期開講し、新しい制度での運営状況を評価することができなかった。よって、第 2 年次では新しい制度を試行的に運営し、改善ならびに運営の定着を図ることとする。
- ・ 成果 2 に関しては、成果として日本研修 (体育科教育と大学運営の研修)、タイ研修 (ASEAN 諸国の体育科教育、大学運営の研修) を実施して実際の状況を視察し、理解することによって 4 年制体育科コースの開講に必要な基礎的な知識を習得することができた。また研修で得た体験・知識をカンボジア国内の研修において講師として NIPES の他の教職員に共有することができた。このように人材は育成されているが、より多くの知識・技能を身につけることを第 1 目的として、持続可能性を確保するために日本だけでなく、ASEAN 他国への視察をすることで事業終了後も NIPES が近隣諸国に視察できるように関係性を保つことを第 2 目的とする。
- ・ 成果 3 に関しては、成果としてプールと浄化設備のみが整備された。しかし

ながら、更衣室やトイレなどの必要な付帯設備は整備されなかったため、第2年次にこれを整備する。また、プールだけでなく質の高い体育を教える施設状況を整備するために、第2年次においてジムルームの建設及び必要な資機材の設置を行う。さらに、設備の維持管理・運営に付いて言えば第1年次でプールのメンテナンスマニュアル、使用規則などが策定されたが、実際の使用は新学期の12月から始まったため、維持管理、使用が適切になされているかどうか引き続き第2年に見てゆく必要がある。施設運営マニュアルについては、すでに95%の内容を理解し、目標を達成しているが、2年目はジム・ルームの施設運営、3年目は寮の施設運営に対する理解が必要のため、各年施設全体としての運営方法をどのように理解しているかを確認していく。

●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性

- ・2017年7月にロシアのカザンで開催されたユネスコ体育・スポーツ大臣会合において、「カザン行動計画」が採択され、ユネスコのSDGsに則った体育・スポーツの発展や障がい者や女性のインクルージョン等が盛り込まれており、体育・スポーツがSDGsの達成においても重要な役割を担うことが明記されている。
- ・カンボジアの4年制体育大学システムの構築は、2015年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の以下の項目の達成に貢献できる取り組みである。

目標4、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」

4.1「2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」

4.c「2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。」

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
9:不明／未定	2:主要目標	2:主要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動(緩和)	気候変動(適応)	砂漠化
0:目標外	9:不明／未定	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外

参照1:

[https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT\(2018\)9/ADD2/FINAL/en/pdf](https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT(2018)9/ADD2/FINAL/en/pdf)
(43ページ～)

参照2(防災、栄養、障害者は以下を参照。)

[https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT\(2018\)52/en/pdf](https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT(2018)52/en/pdf) (6ページ～)

	●外務省の国別開発協力方針との関連性 カンボジア政府が掲げる国家開発計画「四辺形戦略」のひとつである「能力強化と人材開発」に位置づけられる。また、これに対応し、教育は外務省の対カンボジア国別開発協力方針の中目標：産業振興支援の産業人材の育成として位置付けられている。
	●「T I C A D VIおよびT I C A D 7における我が国取組」との関連性 カンボジアでの案件のため、該当しない。――
(3) 上位目標	学習指導要領に沿った体育科教育が中・高等学校教育の現場で実施されている。
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	4年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員/スタッフが育成され、 プール、ジムが整備されることによって、NIPESの学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。 4年制の中・高等学校体育科教員養成課程が大学運営基準に従って運営される。
(5) 活動内容	「4年制の中・高等学校体育科教員養成課程が大学運営基準に従って運営される。」という今期事業達成目標を達成するため、以下、3つの成果及び成果に沿った活動を計画する。 【2年目】 1. NIPESの体育科コースが4年制大学に移行するための制度が整えられる。 1-15. 体育科コース運営ワークショップを開催する。 (概要) 実施回数：1回、実施期間：3日間、実施時期：2か月目の上旬。対象者：30名、外部専門家の招へい：無し 経費：参加者日当、軽食費²、会場清掃費、文具購入費³、資料印刷費等 外部専門家は招へいしないので、招へいに係る経費は発生しない。 目的及び内容：第1年次で作成した体育科コース運営ハンドブックに従ってNIPESが日々の業務を実施できているかどうかを確認し、ハンドブックの内容が実際の業務と照らし合わせて変更の必要があるかを確認し、必要であればハンドブックの内容を修正し、改善する。 なお、ワークショップの形態であるが、まず必要な知識のインプットは講義形式で行い、次に各課題の理解促進のために参加型グループワークを行う。参加者全員が数名の小グループに分かれ、各自が与えられたテーマについて考え、意見を述べ、まとめ、発表し、さらにその他のグループの発表を聞き、理解してからNIPES全体で意見を集約し、課題に取り組むことができるようにする。 1-16. 体育科コースを試行的に運営する。 1-17. 体育科コースの運営をモニタリングする。本部スタッフ3回目、6回目に参加。

² 軽食費とは、会議やワークショップで、午前と午後それぞれの途中休憩に合わせて、ミネラルウォーターやコーヒーなどの飲み物と、フルーツやパンなどの軽食を提供するリフレッシュメントのことで、現地では会議やワークショップの際に提供する習慣があり、当会他事業や他団体の事業においても一般的に提供されている。

³ 文具購入費とは、ワークショップのグループワークで利用するポストイットとペン、模造紙が主です。参加者の意見を簡潔にまとめたり、共有したり、各人が参加でき、グループでの活動を効率的に進めることができます。

2. NIPES において、質の高い体育を教えられる人材が育成される。

2-1. 新しいカリキュラムに沿った教員マッチアップワークショップを開催する。

(概要)

実施回数：1 回、実施期間：3 日、実施時期：1 か月目の中旬、対象者：30 名、外部専門家の招へい：無し

経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等

外部専門家は招へいしないので、招へいに係る経費は発生しない。

目的及び内容：第 1 年次に作成した体育科コースの新しいカリキュラム・フレームワークとシラバスに照らし合わせて各科目の教員の授業状況を把握し、どの科目の人材が不足しているかを確認し、必要に応じてどのように育成するか、外部から招聘するかなどを検討する。なお、ワークショップ形態は講義形式と参加型グループワークで行う。

2-2. 4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修の内容を検討する。

2-3. 4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上するための体育教員育成研修を日本とカンボジアにて実施する。

実施回数：4 回（日本研修 2 回、カンボジア研修 2 回）

(日本研修)

(概要)

第 1 回目、実施期間：10 日間、実施時期：5 か月目の下旬から 6 か月目の上旬、対象者：各 4 名

経費：日本に招聘する NIPES 教職員 4 名と同行する小会スタッフ 1 名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費

目的：NIPES で優秀な 4 名が、4 年制コース試行運営以降、カリキュラムの内容を把握しながら、体育教員を養成するためには、各授業にてどのような教え方が求められているかを日本の体育大学にて確認し、NIPES において、他の教員に教えられるよう育成する。

内容：NIPES は体育教員を養成する機関であり、2019 年 12 月に試行的に 4 年制の 1 年目をスタートすることができた。12 月開始以降、プロジェクトにおいて、教員の授業をモニタリングし、講義・実技に分けて、教授法、生徒の理解度、授業の流れ等を確認し、データ集積し、教員の質を確認しているところである。その中で、他の教員のモデルとなる教員を日本に招聘し、日本体育大学を中心に、日本の大学の講義・実技の授業を視察する。今までの教え方では、論理性や生徒の興味を引き出す授業はできておらず、新しい教授法を学ぶことにより、教え方のバリエーションを増やし、知識を蓄積する。また、現在の NIPES の 6 領域 (Education Studies, Academic Studies, Curriculum Studies, LEADS, Essential Course, Practicum) 全体を通して日本の体育大学の構成と比較することで、個々の授業がどのように体育教員の資質を育成していくのか確認する。

(概要)

第 2 回目、実施期間：10 日間、実施時期：9 か月目の下旬から 10 ヶ月

目の上旬、対象者：各 4 名

経費：日本に招聘する NIPES 教職員 4 名と同行する小会スタッフ 1 名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費
目的：NIPES で優秀な 4 名が、日本での体育教員養成課程での生徒の評価方法を学ぶことで、NIPES において、どのように生徒を評価し、単位を与えるかを整理する。

内容：NIPES では各授業での評価方法が明確になっていない。シラバスでどのように評価するかの概略が記載されている一方で、試験以外の評価指標をどのように取ればよいか、NIPES 教員も悩んでいる。生徒が体育教員となるために必要な資質を身に付けたかを評価するために、日本の体育大学における講義・実技の授業で、どのような手法で生徒に単位を付与しているのかを視察することにより、NIPES での公平な生徒の評価基準の確立につなげる。評価手法を確立することにより、NIPES の運営の透明性も確保することができる。カンボジアでは、教員養成大学等、講義の授業評価は参考にできるところもあるが、体育大学がないため、日本の体育大学での評価手法を視察することは大変重要である。

(カンボジア国内での研修会)

(概要)

第 1 回目、実施期間：各 3 日、実施時期：4 か月目の上旬ないしは中旬、対象者：30 名、外部専門家の招へい：無し

経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等
外部専門家は招へいしないので、招へいに係る経費は発生しない。

目的：日本に研修に行った教員が展開する授業手法を専門家に確認してもらうことで、NIPES での教授法の方向性を確認し、専門家より教授法を紹介してもらうことで、NIPES の各教員の教授法の幅を広げる。

内容：日本の体育大学の授業内容を視察した教員リーダーが NIPES での教授法を紹介・実践する。その内容を専門家が確認し、現在の NIPES 教員にとって必要な教授法を指摘してもらう。加えて、日本だけでなく、世界の体育教授法を確認してきた専門家より、新しい視点を紹介してもらうことにより、教員の質の幅を広げ、講義及び実技の内容を検討することで、NIPES における授業内容が改善されることを期待する。

(概要)

第 2 回目、実施期間：各 3 日、実施時期：12 か月目の中旬、対象者：30 名、外部専門家の招へい：有り（日本体育大学岡出美則教授）

経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等
招へいする専門家の航空賃、日当、宿泊費、査証取得費、日本国内旅費、資料作成費、海外旅行保険代

目的：本邦研修に行った教員が、日本の評価手法を元に、NIPES での評価手法案を紹介し、検討することで一貫性のとれた公平なで平等な評価手法になるよう確認する。

内容：2 回目の本邦研修において、4 名の研修参加者は日本の評価手法

	を参考にした NIPES での評価手法の案を策定する。策定した評価手法を研修参加者に紹介した後、参加者全員で検討することで、実際に教えている教員としての問題点や課題を共有し、実際に運営できる評価手法に仕上げていく。本部スタッフ参加。 2-4. NIPES の体育教員の授業実施状況をモニタリングする。(シラバスに沿った内容を教えているか、年間計画・指導案に沿った授業が実施できているか、学生が体育教員となるために必要な資質をしっかりと身につけているか等を、評価シートを作成して確認する。)(1 年間で 6 回実施し、体育科コースの運営状況及び授業の質を確認予定)本部スタッフ 3 回目、6 回目に参加。 2-5. 大学マネジメント能力向上のための研修を実施する。 (概要) 実施回数：1 回、実施期間：3 日、実施時期：11 か月目の上旬ないし中旬、対象者：30 名、外部専門家の招へい：無し 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 外部専門家は招へいしないので、招へいに係る経費は発生しない。 目的：1 年間の試行運営を通して、問題点や課題を共有し、ガイドブックや規定等をワークショップ内で修正していくことを目的とする。 内容：1 年間を通じての 4 年制大学の運営を通して、アドミニストレーション・ハンドブックの内容の課題を共有し、議論していく。施設運営や教員・生徒への大学運営への関与、人材育成等における課題点と解決案を検討し、今後どのように 4 年制大学の円滑な運営ができるようになるかを参加型で検討するワークショップを実施する。 2-6. 教える人材、運営するための人材が育成されたかを確認するための評価会議を開催する。(専門家招聘予定) (概要) 実施回数：1 回、実施期間：1 日、実施時期：6 か月目の下旬、対象者：30 名、外部専門家の招へい：有り(日本人専門家を予定) 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 招へいする専門家の航空賃、日当、宿泊費、査証取得費、日本国内旅費、資料作成費、海外旅行保険代 目的：NIPES での年間の指導内容を確認し、より質の高い授業を提供するためには、カリキュラム・フレームワーク、シラバス、授業実施方法、生徒評価方法等のどのような点の改善が必要かを協議し、それぞれの授業の課題、解決案を策定していく。 内容：1 年目で作成した NIPES の授業モニタリングシートやビデオを元にして、日本から専門家も招聘しながら、どのような点の改善が必要かを議論する。その課題に基づき、本邦研修の内容の検討やカンボジアでのワークショップの指導内容に反映させていく。 2-7. 教育省として、体育関連の修士課程を修学できる NIPES スタッフを派遣するため、タイ、マレーシアの大学との協議を行う。 実施回数：2 回(詳細別紙) (第 1 回目) (概要) 実施先：マレーシア、実施期間：5 日間、実施時期：7 か月目の中旬、対象者：4 名 経費：マレーシアに招聘する NIPES 教職員 4 名と同行する小会スタッ
--	--

フ 2 名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費目的：体育教員の学士もしくは修士が取得できる大学と MOU を結び、カンボジアの Teacher Education Provider Standard に記載のある資格の持った人材を育成できるための連携協定を結ぶ。

内容：2019 年 7 月に University Putra Malaysia から Malaysia Qualification Agency の専門家でもある Lian Yee Kok 教授を招いて実施した研修の際に、表記 1 大学との MOU の可能性について協議した。今回の協議では、事前に MOU 内容について合意を図り、実際に MOU への署名を行う。また、MOU 締結後の双方の計画を協議し、NIPES の人材が早急に学士、修士の資格を取れるよう進めるよう調整する。

(第 2 回目)

(概要)

実施先：タイ、実施期間：5 日間、実施時期：9 か月目の上旬、対象者：4 名

経費：タイに招聘する NIPES 教職員 4 名と同行する小会スタッフ 2 名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費目的：体育教員の学士もしくは修士が取得できる大学と MOU を結び、カンボジアの Teacher Education Provider Standard に記載のある資格の持った人材を育成できるための連携協定を結ぶ。

内容：2019 年 8 月に実施したタイ研修の際に、表記 3 大学との MOU の可能性について協議した。今回の協議では、事前に MOU 内容について合意を図り、実際に MOU への署名を行う。また、MOU 締結後の双方の計画を協議し、NIPES の人材が早急に学士、修士の資格を取れるよう進めるよう調整する。

3. NIPES において、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。

建設工事については、第 1 年次においてプールを稼働させるために最低限必要な建設工事として、プール (25mX15m) 本体建設工事、フィルター・ポンプルーム及び隣の女子更衣室の一部の柱・天井の建設工事、給排水・配電システム設置工事を行った。

よって 2 年次においては、プール周辺のテラス建設工事とプール周辺の建屋 (1 階：男女更衣室、トイレ・シャワー室、事務室、2 階：ジム・ルーム) の建設工事、並びに屋外シャワーの設置工事を行う。

なお、第 2 年次においてコースロープの設置とジム・ルームの拡張工事、およびエアコン等の増額分を補うため、当初の計画でプール周辺のテラスに建設予定であった観客席の建設を取りやめ、その予算を全額カットし、これらの工事費に充てることを NIPES との協議のうえで決定した。

(理由)

プロジェクト目標及び上位目標を達成するために、プール関連機材として練習用のコースロープの設置が必要であり、また専門家のアドバイスに従ってジム機材の充実を図ると共に体育の授業等で使用する場合に十分な広さを保ち、安全性を確保するためにはジム・ルームの拡張工事が必要不可欠であると、NIPES と協議を重ね判断したため。

3-2. プール関連機材を調達する。コースロープの設置。

3-3. プール周辺のテラスと建屋 (一部 2 階建て) を建設する。(2 年次はプール周辺のテラスおよび第 1 年次に建設した 1 階フィルター・ポンプ

	ルームの建設を除いた 1 階部分の事務室、男女更衣室、シャワー・トイレルーム等を収容する建屋の建設、ロッカー等の必要な備品の設置、屋外シャワーの設置工事を行う。) 3-4. ジム・ルームを建設する。(ジム・ルームはプール周辺建屋 2 階に建設される。体育教員の資質として、筋肉や関節等、運動科学的な身体づくりを理解し、子供の発達の特徴を理解するために筋肉のつき方や発達の仕方を理解する機材が必要である。なお、現場の中・高校ではジムがなくても体育の授業は実施できる。) 当初、ジム・ルームの大きさは幅 6.0mX 長さ 11.5m の予定であったが、安全性を考慮し、十分な広さを確保するため、長さを 5m 延長して、16.5m に拡張した。 また、利用環境を適切に保つためジム・ルームにエアコン、扇風機、冷水器、換気扇を設置する。 3-5. ジム機材を調達するとともに、体育の授業に必要な各種ボール等のスポーツ用具が現在不足しており、これを改善するために最低限必要な用具を購入する。 3-8. 施設建設状況を確認する。(プール周辺建屋建設中は、施設建設専門家を雇用し、毎日午前中は現場にて、詳細図面、工程表に従った工事状況をモニタリングする。午後は当会の事務所で報告書を作成し、月 2 回、設計図に従った建築が行われているか、材料等の齟齬はないか、破損等がないか、工期通り進んでいるか等を記載した報告書を提出する。) 3-9. 施設管理のためのワークショップを開催する。 実施回数：2 回 第 1 回目 (概要) 実施期間：2 日、実施時期：5 か月目の中旬から下旬、対象者数：20 名、外部専門家の招へい：有り(建設業者エンジニア) 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 建設業者のエンジニアを外部専門家として招聘するので、経費は発生しない。 目的と内容：プール周辺の建物等の維持管理と使用方法、および使用規則についての研修 —プール周辺の建物等の維持管理、使用方法に関しては建設工事が終了するとともに、建設業者のエンジニアを研修会の講師として招聘し、NIPES の教職員に対し、講義と実習を行う。NIPES 職員は研修会を通じて維持管理と使用方法を学び、研修後には NIPES 内で維持管理担当者、スケジュールを決めて維持管理ができるようにする。 —プール周辺の建物等の使用規則については NIPES の担当者が作成し、研修会にて他の教職員に教えることとする。研修会後は研修に参加できなかった教職員にも教え、NIPES で定めた使用規則に従って授業等で施設を利用することができるようにする。 第 2 回目 (概要) 実施期間：2 日、実施時期：6 か月目の中旬、対象者数：20 名、外部専門家の招へい：有り(ジム機材業者)
--	--

	経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 ジム機材業者を外部専門家として招聘するので、経費は発生しない。 目的と内容：ジム機材の維持管理と使用方法、および使用規則について —ジム機材の維持管理、使用方法に関しては設置工事が完了すると同時に、ジム機材の業者を研修会の講師として招聘し、NIPES の教職員に対し、講義と実習を行う。NIPES 職員は研修会を通じてジム機材の維持管理と使用方法を学び、研修後には NIPES 内で維持管理担当者、スケジュールを決めて維持管理ができるようにする。 —ジム機材の使用規則については NIPES の担当者が作成し、研修会にて他の教職員に教えることとする。研修会後は研修に参加できなかった教職員にも教え、NIPES で定めた使用規則に従って授業等で施設を利用することができるようにする。 3-10. 施設移譲のための覚書を交わし、譲渡式は自己資金で実施する。 (概要) 実施期間：1 日、実施時期：6 か月目の下旬、参加者数：60 名 参加者内訳（在カンボジア日本国大使、他大使館関係者 3-4 名、カンボジア教育・青年・スポーツ省 大臣、同事務次官、同事務次官補 2 名、スポーツ総局長、学校体育スポーツ局長、ナショナル体育スポーツセンター所長、体育スポーツ局長、NIPES 所長、NIPES スタッフ約 50 名、ハート・オブ・ゴールド関係者約 6 名） 経費：軽食費、会場清掃費、テープ、文具購入費、テントレンタル費、椅子レンタル費、資料印刷費 3-11. 施設運営マニュアルを作成する。 3-12. 施設運営・利用状況のモニタリングを行う。（1 年目のプールのメンテナンスに加えて、2 年目はロッカールームやトイレを清潔に利用しているか、定期的な清掃等ができていないか、ジムのメンテナンス状況を合わせて確認する。）（実施時期は活動の 1-17 体育科コースの運営をモニタリングする。2-4 NIPES の体育教員の授業実施状況をモニタリングする。と同じ時期に実施する。）本部スタッフ参加。
	裨益人口 ・ 直接裨益人口：教育省 NIPES 職員：65 名（NIPES 改革委員会局長 1 名、NIPES 局長 1 名、副局長 3 名、総務課 10 名、計画課 4 名、文書管理課 7 名、体育・スポーツリサーチセンター 3 名、体育・スポーツ教員養成センター 36 名） ・ 間接裨益人口：NIPES (2019-2020 年度) 学生：1 年生 150 人、2 年生 150 人、カンボジア全国 1,739 校の中学校生徒数：610,261 名、全国 525 校の高校生徒数：321,145 名（2018-2019 年度教育省統計より）
(6) 期待される成果と成果を測る指標	2 年目（2021 年 1 月～2021 年 12 月） 成果1 NIPES の体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。 指標2. 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った 4 年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第 1 年次では制

	度の基盤が 12 月に整ったので、達成度を 50%とする。そして今年度から実際に制度の運用を開始するため、第 2 年次の達成数値は新しく運用の程度を評価し、目標を 70%とする。 指標 2 の根拠 期待される成果の成果 1 の全体数値目標を 100%とし、制度の基盤である体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックが作成されることを 50%の達成度とする。この 50%は第 1 年次で達成済み。残りの 50%を作成した各ポリシーを実際に運用する事とする。日本の大学評価手法を参考にし、①使命・目的等、②学修と教授、③経営管理と財務、④自己点検・評価を項目とした評価基準⁴にしたアセスメントシートを作成し、それによってどの程度運用されているかを評価する。第 1 年次は 12 月から運用を開始したばかりなので、運用の達成度は 0 である。 第 2 年次の今年から実際に運用を開始するのでアセスメントシートを使って、運用状況を把握し 70%を達成目標とする。 さらに、評価項目がどの程度運用されたかを見るだけでなく、NIPES が制度を自主的・自立的に運用できるようになったかどうかを測るために、各ポリシー等が実際にどのように使用され、どのような課題があり、改善したか、また改善案を提示することができたかを詳細に把握し、質的に向上しているかを測る。 指標 2 の確認方法 ・ モニタリング結果報告書 ・ 課題、教訓、改善案等が記載された提言書 成果 2 NIPES において、新しく認定されたカリキュラム・フレームワークに則って質の高い体育を教えられる人材が育成される。 指標 1. 4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修がカンボジア国内で開催され、参加した NIPES 教員の 70%が 70%の内容を理解している。(授業を教える 36 名のうち、前年度に達成している 60%に加え、10% (4 名) の能力向上を図る。また、前年度の 60% (22 名) についても知識の定着度を図る。4 名については、本邦研修を実施し、その知識を自分たちで伝えていくことにより、知識を定着させる。理解していない職員に対しては、当会スタッフが補習を行う。) 指標 1 の根拠 期待される成果の成果 2 として、第 1 年次ではまず授業を実施するために必要なカリキュラム・フレームワーク、シラバス作成等を行った。一方、質の高い体育を教えられる人材が育成されたかを確認する必要があるため、各教員がその内容を理解しているかを確認する必要がある。第 1 年目ですでに作成したアセスメントシートを用い、70%の教員が 70%の内容を理解することを目標とする。第 1 年次は教員 36 名の内の 65%が 60%の内容を理解している。 さらに、実際の授業においてカリキュラム・フレームワーク、シ
--	---

ラバス、指導案に沿った質の高い体育の授業を各教員が行っているかどうかを測る必要がある。実際に授業が始まった第2年次から授業評価のためのアセスメントシートを作成し、教員の70%が各項目の合計の70%を達成することを目標とする。

指標1の確認方法

- ・ 理解度確認テスト（各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は60%、今年度は70%の正解率を目標とする）

指標2. 8名の研修生が受講終了後に受講終了後にNIPESでの指導方法についての改善案（1回目）及び評価についての改善案（2回目）が提出され、NIPESの75%の職員が改善案に合意する。

指標2の根拠

日本研修によって能力が向上し、質の高い体育を教えられる人材が育成されかどうかを、日本研修を受けた教員8名が実際に日本で学んだことを理解し、学んだ内容をNIPESでの実際の指導方法改善案、評価方法改善案として作成、NIPESで発表し、NIPESの70%の他の職員が改善案に合意することで、研修成果が成果として反映されたことで反映されたと確認する。

指標2の確認方法

- ・ 指導方法改善案（1回目）
- ・ 指導法・生徒評価方法改善案（2回目）
- ・ 教員育成研修報告書

指標3. NIPESの70%のマネジメント・スタッフがアドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーや運営ハンドブックの内容を70%以上理解している。（マネジメント職員29名中、前年度の60%に加え、10%（3名）の能力向上及び前年度の60%（18名）の知識の定着を図る。理解していない職員は個別にそれぞれの役割を確認した上で、なぜ理解できていないのかを確認し、個別に対応していく。）

（各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は60%、今年度は70%の正解率を目指す）

指標3の根拠

成果1の指標2では体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿って4年制大学の運営がどのように実施されているかどうかを測るが、一部の管理職のみがポリシー等を理解し、職員に指示を出してやらせているような状況であれば健全に運営されているとは言えない。また、研修会に参加した職員だけでなく運営管理にかかわるそれぞれの職員が運営に必要な各ポリシー等を理解し、課題を見つけ、改善してゆく能力があるかどうかを測る必要がある。

指標3の確認方法

- ・ アドミッション・ポリシー理解度確認テスト
- ・ キャリアプラン理解度確認テスト
- ・ 評価ポリシー理解度確認テスト

	・ 運営ハンドブック理解度確認テスト ・ 課題、教訓、改善案等が記載された提言 成果3 NIPES において新しく整備された施設が適切に維持管理され、体育の授業に利用されている。 指標1. プール、ジム機材等が実際に体育の授業等で利用規則に則って使用されている。 指標 1 の根拠 第 1 年次で整備されたプールについては、第 2 年次で体育の授業で実際にどのように利用されているかを測る必要がある。 また、第 2 年次ではプール周辺の建物、ジム・ルーム建設工事、ジム機材等の設置が計画通りに整備され、体育の授業で利用者規則に従って実際にどのように利用されているかを測る必要がある。 指標 1 の確認方法 ・ プール周辺建屋建設報告書 ・ ジム・ルーム建設報告書 ・ ジム機材設置報告書 ・ 授業記録、利用者数 指標2. 70%の NIPES 職員がプール周辺建屋及びジム・ルーム運営について、理解している。 各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は 60%、今年度は 70%の正解率を目指す。 指標 2 の根拠 NIPES 職員がプール及び関連機材、ジム・ルーム及びジム機材の維持管理方法を理解し、実際に適切に維持管理できているかを測る。 指標 2 の確認方法 ・ 施設運営理解度確認テスト ・ 施設維持管理担当者リスト、担当報告書
(7) 持続発展性	NIPES は、教育省内スポーツ総局の一つの機関として年間予算が確保されており、事業終了後も継続する機関であるため、持続発展性を確保することができる。 本事業で建設・調達する体育施設・資機材等は教育省に移譲するが、修理やメンテナンスが必要な場合は教育省が独自で予算を確保し、責任を持って管理・修繕できるよう事業前から確認し、移譲の際にはその旨を覚書に記載する。 本事業により NIPES の体育科コースが 4 年制大学になれば、他教科における教員養成大学と同等の位置づけになり、カンボジアにおける唯一の体育教員養成大学となる。 本大学の体育科コースに入学する学生は、卒業後は、教育省及び州教育局や、小・中・高の教員養成校に配属されるが、多くの卒業生は、前年度に配属要請があった全国の中・高等学校に配属されるため、Pre-service として本大学で学んだことを、卒業後には In-service として全国の中・高等学校の生徒に教えていくことになる⁵。当会は、卒業生の配属状況及び指導状況を教育省と共に確認するようにし、事業の成果がしっかりと中・高等学校の生徒まで及ぶよう

⁵ NIPES 卒業生の進路は、全国の中学校・高等学校の体育科教員、小学校・中学校教員養成校の指導教員、教育・青年・スポーツ省及び州教育局の職員が主なものである。

	フォローしていく。 また新しい体育の普及について、現場の中学校・高等学校の状況として、NIPESにおいて、新しい体育を教える知識や技能を学んでも実際の現場では、それらを実施できる状況ではないという課題があるが、グラウンドに関しては、現状整備されていない学校が多いため、現在の小・中学校の指導書には、整備されていない学校でも新しい体育を実施できるように教具やスペースを工夫できるような方法が盛り込まれている。また、NIPES4年制大学の体育科コースのカリキュラム内では、授業内容を検討する際に、教員となる学生は、設備が整備されていない学校においても体育を実施できるような教授法を取得するよう内容を検討する。
--	--

(ページ番号標記の上、ここでページを区切ってください)